

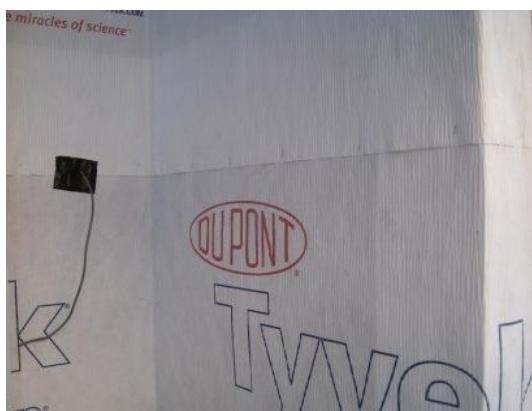
EIFSの家(湿式外断熱)施工手順書 《木造》【EIFSオリジナル仕様】

EIFSJAPAN株式会社

1

スタッコラップ (防水シート貼り)

1. スタッコラップに傷、破れなどがないか確認して下さい。破れを補修する場合は専用テープを使用して下さい。
2. スタッコラップのシワが縦目になるようにして下さい。
3. スタッコラップは、水の浸入を防ぐため下部より上部へ貼り進めてください。
4. 重ね代は上下に90mm以上とし、出隅、入隅は二重貼りにして下さい。また、スタッコラップを途中で継ぎ足す場合は150mm以上を重ね、重なり部は必ず柱、間柱がある所に設け、専用テープで確実に止めて下さい。
5. スタッコラップのしわが無くならない様に張って、タッカーで止めて下さい。

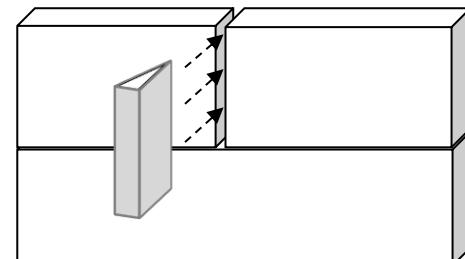
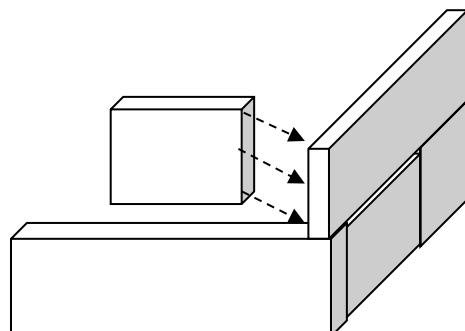


スタッコラップ 1.524m × 60m (施工面積: 80m²/巻)

2

EIFS-Jボード貼り

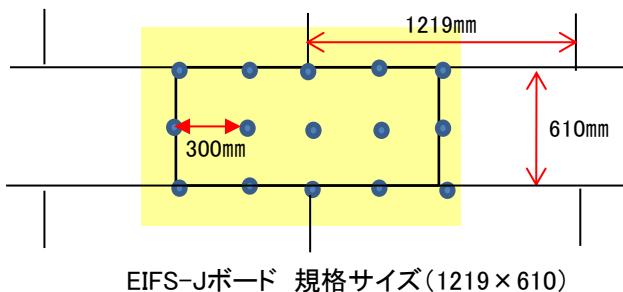
1. EPS(1219mm × 610mm)を貼る前に、最下部、軒天部、開口部まわりなどシステムの端部は、EPSの上に63.6mm以上の重代がとれるよう、スターターメッシュ(0.24m × 46m)をタッカーで面材に止めて下さい。
2. EPSは必ず馬踏み目地状にし、出隅ではやり違い貼りにして下さい。
3. 3mm以上ジョイントに隙間があった場合は、くさび状にカットしたEPSを詰めて下さい。
注意:樹脂モルタルで埋め込まないでください。



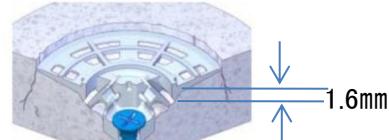
3

EPSボード貼り ワッシャー止め

- ・開口部、パイプまわりなどの浸透部は10mm以上のコーリング代を設けて下さい。
- ・EPSのジョイントが開口部の角にこないようにして下さい。
- ・ジョイントに段差がある場合はサンダーコテで削るか、樹脂モルタルで平滑にして下さい。
- ・サンダーコテを使用する場合は、軽く円を描きながら平滑にして下さい。



- ◆段差がないようワッシャー止める
- ◆ワッシャーは300mm間隔で止める
- ◆1m²当たり 13~15個使用
- ◆ビスの長さ=EPS厚み+15mm



ワッシャーの留め方が悪い例のようになり、あきらかにEPSが割れた場合はEPSを新しいものと取り替えて下さい。

留め方

- ① ワッシャーを留めるスクリューは、下地材の材質とEPSの幅を考慮して適切な長さのものを選択して下さい。
- ② ワッシャーを留める力加減は、ワッシャーの端が1.6mm埋まるまでとします。
- ③ ワッシャー 施工面積: 12~16個/m²

注意 下地の不陸調整

ワッシャーの凹みは必ず樹脂モルタルで処理して下さい。

EPSジョイント部の不陸は、樹脂モルタルで平滑にしてください。

出角: 入角部等の不陸を樹脂モルタルで平滑にしてください。



1 樹脂モルタルを作る

- 容器内のF&Mベースコートをよく攪拌して下さい。
- F&Mベースコートに少しずつポルトランドセメントを加えよく攪拌して下さい。(重量比1:1)
- 5分間寝かした後、再度攪拌し硬い場合は水を加え施工しやすい硬さに調節して下さい。
- F&Mベースコート1缶に対し2.8ℓ以上の水は加えないで下さい。

2 バックラップの処理を建物下部から進めて下さい。

3 出隅はメッシュを二重貼りにし、重ね代は200mm以上とり、固めの樹脂モルタルを使用しメッシュの浮きが無いように処理して下さい。

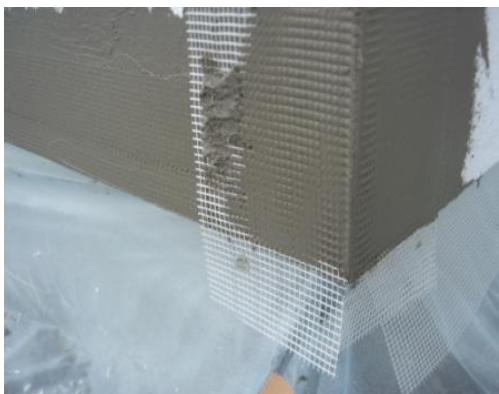
4 開口部の四隅は300mm×250mm程度のメッシュを斜めに貼り補強して下さい。

小口(EPSの断面)もしっかり樹脂モルタルを塗って下さい。

5 メッシュ(1m幅)のサイズよりわずかに広い範囲に樹脂モルタルを塗布し、表面が乾く前にメッシュを被せ、シワができないように中心から外側へコテで押さえていき、完全にメッシュを埋め込んで下さい。

6 全体に樹脂モルタル+メッシュを施す

- ジョイント段差:くぼみ処理:開口部等の樹脂モルタルが乾燥しているか確認して下さい。
- メッシュの重ね代は65mm以上とて下さい。
- EJベースコート1缶に対し2.8ℓ以上の水は加えないで下さい。
- 表面の状態や、仕上げ材の塗り方によっては乾燥後に2度塗りをして下さい。
- 1日以上養生して下さい。施工時の天候具合で乾燥時間が変化するので注意して下さい。



端部補強



開口部補強



パイプ回りの収め



EJベースコート 施工面積:約20m²/缶
メッシュ 施工面積:約45m²/巻

4-2

下地



5-1

仕上げ

- 1 樹脂モルタルの乾燥を確認して下さい。
- 2 出隅、入隅、端部が整っていない箇所、メッシュの浮き、不陸等ある場合は必ず手直しをして下さい。
- 3 仕上げ材を調合して下さい。 専用カラー(耐色あせ商品)で仕上げ材に色をつける
 - ・仕上げ材1缶に対して、カラーボトルを1本入れて下さい。
 - ・ボトルに残ったカラーは、ボトルの1/3まで水を入れ、よく振り仕上げ材に入れて下さい。
この工程を2・3回行い、ボトルに付いたカラーを全て仕上缶に入れ、よく攪拌して下さい。
 - ・施工性を考慮し水を入れて調節する場合は、合計で300cc以内の水で行って下さい。



仕上1缶にカラー1本を入れる
ボトルにカラーが残らな様に出し切る



全体に馴染む様にまんべんなく攪拌する

- 【デコ】 最大の骨材よりも厚くならないよう一定の厚さで塗り、表面が乾く前にプラスチックコテで円を描くように動かしながら模様を出していく。
- 【サハラ】 骨材の約1.5倍の厚さで塗り、表面が乾く前にプラスチックコテで円を描くように動かしながら平滑にしていく。
- 【スムース】 最大の厚さを5mm以下にしながら仕上げていく。

- 施工がうまく継続して進行するよう、十分な人員と足場を確保して下さい。
- 仕上げ材の端部は常に乾く前に塗り足して下さい。
- 各施工者は必ず同じコテを使用し、同じ方法でコテを動かしながら、壁全体に渡って模様が均一になるように整えて下さい。
- プラスチックコテに付いた仕上げ材は絶えずヘラ等で取って下さい。
- 変色の原因になる為、仕上げ面に水の使用は避けて下さい。
- 1日以上養生して下さい。



仕上専用: プラスティックコテ



デコ

(青色のフタ)

8~11m²/缶

サハラ

(緑色のフタ)

8~11m²/缶

スムース

(オレンジ色のフタ)

9~13m²/缶

デコ



サハラ



スムース

1 EIFSベースコート及び仕上げ材の保管温度は直射日光を避け4°C以上38°C未満にして下さい。

2 施工時の気温が4°Cを下回ると乾燥時間が極端に長くなります。

注意:施工後の天候に注意して下さい。

3 施工後も24時間以上もしくは材料が乾燥するまで表面温度は4°C以上を保って下さい。

4 4°C以下の施工は硬化不良(浮、剥離)を起こします。仕上げ材は変色する恐れがあります。

5 施工中に雨や雪が降ってきた時は、直ちに施工を中断しシート養生をして施工面を保護して下さい。

6 寒冷地での施工では凍害に注意して下さい。

7 コーキングの上に仕上げ材を塗布すると、ひび割れ、剥離が起きる場合があります。

8 スムースを薄く塗り過ぎるとメッシュの跡が出ることがあります。平滑に仕上げたい場合は2度塗りをして下さい。

9 保管温度は、4°C以上、または38°C以下になる場所に保管して下さい。